

# 前田農産食品合資会社

## 生産者の顔の見える小麦粉を通して農業のファンづくり



### 〈法人の概要〉

所在地: 千089-3308 本別町弥生町27番地1

代表者: 代表取締役社長 前田芳雄

構成員: 3名(構成農家1戸)

役員: 3名 常時雇用者: 3名

設立: 昭和26年5月 資本金: 200万円

事業内容: 畑作/農産物販売、農作業受託  
秋まき小麦 49ha、春まき小麦 26ha、  
てんさい 23ha、豆類 15ha (H23年)

経営面積: 113ha 農作業受託面積: 7ha

売上高: 9,900万円(H22年) 交付金も含む

電話: 0156-22-8680 FAX: 0156-22-0015

URL: <http://www.co-mugi.jp/>

E-mail: [info@co-mugi.jp](mailto:info@co-mugi.jp)

### 〈法人のあゆみ〉

明治 32 年	前田金四郎氏(1代目)が本別町に入植
昭和 12 年	馬鈴薯澱粉工場を創設者から引き継ぎ操業開始(2代目 美次氏)
26 年	前田農産食品合資会社を設立
45 年	前田芳雄氏入社(3代目・現代表取締役)
47 年	馬鈴薯澱粉工場閉鎖、畑作専業(16ha)開始
59 年	小麦乾燥施設建設(自家小麦の乾燥開始)
平成 4 年	小麦乾燥施設増設
11 年	前田茂雄氏入社(4代目・現専務取締役)
17 年	小麦粉の流通と販売を目的とした、(有)十勝太陽ファームを設立
20 年	小麦乾燥施設に調整ラインを増設、生産者の顔の見える小麦粉を販売開始
22 年	従業員 2 名雇用(農の雇用事業活用)

### 〈設立の経緯・設立後の状況〉

- ・昭和 12 年に 2 代目の前田美次氏が馬鈴薯澱粉工場の経営を開始し、昭和 26 年に前田農産食品合資会社を設立。
- ・昭和 45 年に 3 代目の現代表取締役の芳雄氏が入社。その後、昭和 47 年に河川工事による用地買収のため、工場を閉鎖し、経営面積 16ha で馬鈴薯、小麦、小豆を生産する畑作専業の農業生産法人として新たなスタートを切る。昭和 56 年には 70ha に規模を拡大。
- ・昭和 59 年に小麦乾燥施設を建設し、自家小麦の乾燥を開始。
- ・平成 11 年に 4 代目となる現専務取締役の茂雄氏が入社。平成 15 年には経営規模が 100ha に拡大。茂雄氏の入社後、会社の決算を年別に分けて分析した中で、これまでの傾向や今後の方向性を見いだす。
- ・平成 17 年に自家生産の小麦粉の流通と販売事業を目的とした(有)十勝太陽ファームを設立。代表には茂雄氏が就任。
- ・平成 20 年に小麦乾燥施設に調整ラインを増設。小麦の知名度・付加価値向上と良質で美味しい小麦を消費者へ届けたいとの思いから、生産から調製までを自家施設で実施し、「生産者の顔の見える小麦粉「あなたのキッチンから広がる麦畑」」の販売を開始。
- ・平成 21 年には、自社小麦を様々なパン・菓子製造業や料理研究家、大学等で利用してもらい、小麦の適性や特徴を研究。このほか、帯広市食産業振興協議会が主催する「ベーカリーキャンプ」や「麦チエントアール」などで小麦ほ場を開放し、小麦生産者の生の声を実需者や消費者に紹介。十勝農業のファン、サポーターづくり、小麦の付加価値向上に取り組む。

### 〈法人経営で生じた課題と対応策〉

- ・従業員を雇うことにより労務管理が発生。⇒職場のルールについて定めることとした。
- ・通年雇用をするうえで、冬季間の仕事の安定確保が必要⇒圃場、工場などの環境整備や改造、山林管理などで対応している。
- ・組織図やしっかりとした経営計画が出来上がっておらず、月ごとや日ごとの作業の進捗性がつかめていない。⇒過去の作業データをもとに予定を作成。
- ・SWOT分析などをスタッフ全員でやっておらず、まだ強みや弱みが解っていない⇒今年度実施予定

### 〈法人経営のメリット・デメリット〉

#### (メリット)

- ・従業員を雇用することで、より前向きな経営を目指す意識が出てきた。
- ・複数作業員により、作業の連続性から短時間でスムーズな作業環境ができた。規模拡大によるメリットでやすい。
- ・様々なアイデアを共有し、実際に作ることで、作業環境の改善や経費節減につながる。

#### (デメリット)

- ・農業は多種にわたる業務を行う必要性と労災考慮の面から、作業免許取得の取得費増加、事務処理の発生があげられる。

### 〈法人が継続するためのポイント〉

- ・目的をもって作業を進める。食の根っここの場所という意識をもつ。
- ・ホワイトボードを活用し、各作業員毎にどのほ場でのどのような作業を実施したかを記載し、1ヶ月分を写真で記録、蓄積。記録した内容については、通年仕事、スポット(臨時)仕事、休日等をデータ化し、年間の活動実績の分析に活用している。
- ・次代にデータとして引き継ぐため、各ほ場毎の作業日時、機械の種類、作業内容、機械の作業状況(スピード、土の状態など)を記録、蓄積している。
- ・今後はタブレット型コンピューターで生産管理情報を簡単に入力できるシステムの開発を検討中。

### 〈これから法人化を目指す農業者へのメッセージ〉

- ・メリット・デメリットをある程度把握した上で、法人化した理由をしっかりと持ち、会社の理念や方針があればより良い環境に人が集まってくると思う。でも、まずは立ち上げることのほうが重要。
- ・経営状況を経営者がしっかりと把握し、今後の経営展開につなげていくこと。また、問題点の改善、最悪のシナリオも想定し、ミス分を考慮しながら運営にあたることが重要。

### 〈特徴的な活動や取り組み〉

#### バランスの良い健康な土づくり

- ・土壌分析を行い、過度の施肥を避け、適切にカルシウム、マグネシウム、微量元素のミネラルを投入し、土壌のバランスを整え、土に働いてもらう。
- ・土壌改良の補助事業が減少する中、自社にて暗渠や明渠を施行し、土壌の物理的環境改善による土づくりを実践。

#### 生産者の顔の見える小麦粉

- ・小麦、小麦粉の成分分析から次年度の栽培方法に活かす。
- ・生産から調製・出荷までを自家施設で実施(製粉は委託)し、地元の道の駅、地元百貨店、インターネット販売業者、パン屋やレストラン等へ販売。また、新たな商品開発を検討。
- ・ホームページやブログに生産情報やパン・お菓子のレシピを掲載し、消費者へ情報発信。

### 〈経営目標と将来の展望〉

- ・入植してから110余年経つが、土壌分析に基づく施肥設計などのデータや作業内容、作業工程などの情報を次世代に財産として蓄積、分析することにより、先人の「勘」や「経験」を科学し、さらに100年持続する農業の実践を目指す。
- ・冬期間の仕事の平準化を図る上で、加工などの新部門を検討していく。
- ・現在の従業員の役員登用を検討していく。
- ・国の補助金や融資を受けるに当たり、選ばれた農家であるという意識を持ち、会社として、食糧確保のためという社会貢献を果たしたい。
- ・帯広市食産業振興協議会による十勝産小麦の高付加価値化の取組として行われている「ベーカリーキャンプ」に生産者として継続参加していく。
- ・農業のサポーターづくりとして、修学旅行生や地域学生の受入、食農教育を継続していく。

### 〈視察等の受入〉

詳細については要相談。有料。

連絡先: 0156-22-8680 E-mail: info@co-mugi.jp (担当:専務取締役 前田茂雄)